

「人々の生活をより豊かにしたい」、Hondaの企業活動や製品にはこのような普遍の想いが込められています。1958年に誕生したスーパーカブシリーズは、まさにその想いを具現化した製品として、小型でありながらも力強く堅牢で、幅広い用途に使い勝手の良い優れた車体パッケージングにより、60年以上にわたりお客様の生活に寄り添い愛されてきました。そして、日本はもとより世界各地から寄せられた多くのご要望や、様々な利用環境に応じてその優れた実用性に磨きをかけながら、今日もお進化と熟成を重ねています。

Hondaがグローバルな企業活動を展開させて間もない1961年、北米市場の要請に応じるかたちで、スーパーカブの派生モデル「CA100T トレール50」が誕生しました。市街地での移動手段にとどまらず、山間部での狩猟や広大な農園管理といった実用領域から、釣行やキャンプなど余暇の楽しみを広げる趣味領域までを視野に、スーパーカブシリーズの活躍するフィールドをさらに広げる新たなコンセプトによって、「CA100T トレール50」は二輪車の新しい需要を創出するきっかけとなります。これを受け、国内でも同様のコンセプトを持つ「ホンダ ハンターカブ」の販売を開始し、以降、大型リアキャリアやアップマフラーを装備するなど、積載性や登坂性能に優れ、不整地での走行に配慮した機構を備えたレジャーモデルとして展開。1964年、北米市場に初めて“CT”の名を冠した「CT200 トレール90」が登場すると、さらなる市場活性化が図られました。その後、国内では1968年に、二輪車で初めてとなる副変速機（スーパートルク）を採用した「ホンダ CT50」を、1981年には、雄大な自然の周辺をゆったりとツーリングする“トレッキングバイク”の入門モデル「ホンダ CT110」が発売され、それぞれがハンターカブの愛称で親しまれてきました。

2020年、この歴史あるHonda二輪のプロダクトブランドを現代の視点と技術で再構築した、新型「CT125・ハンターカブ」を発売いたします。歴代のモデルがその時代背景に沿って豊かなバイクライフを提案してきた様に、CT125・ハンターカブもグローバルモデルとして、現代における多様で个性的なお客様の生活スタイルと調和しながら、日常から非日常までワクワクと心躍る様な体験を共にする良き相棒となり、お客様の生活をより豊かなものにしていく存在となることを願っています。

■CT50 (1968年)



■CT110 (1981年)



■CT125・ハンターカブ (2020年)

